

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077900084
法人名	株式会社 アクロス九州
事業所名	グループホーム コスモピア大木
所在地 (電話番号)	福岡県三潁郡大木町絵下古賀284-1 (電話) 0944-33-2322

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年11月21日

【情報提供票より】(平成21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 8.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造合金メッキ鉄板葺2階建 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)8,000円
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 780円			

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	15名	男性	5名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	74歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たなか内科医院 / 日吉町倉田歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

コスモピア大木は、地域密着型サービスとして、大木町との連携のもと日々のケアやサービスの質の向上を目指して、管理者・職員が一丸となって取り組んでいるグループホームである。今年度は、絵下古賀地区の区長の協力により、地域行事への参加の誘いもあり、地域交流の機会も多くなっている。またホームだよりを年2~3回、地区の家庭にポスティングを行うなど、グループホームの理解を高めるように努力している。ホームだよりには、「耳より情報」として、「認知症ケアに関する相談窓口」を設け、何でも気軽にご相談くださいとPRを行っている。入居者の意向や思いを受けとめ、野菜づくりに励む入居者には、思いのまま畑仕事を楽しんでいただけるように支援し、歌の好きな入居者は自主的に楽しんでいただけるように支援するなど、入居者の望む暮らしづくりを支援している。今後は地域における福祉拠点として「相談窓口」の展開が楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価結果を受け、更に理念を追求したケアやサービス提供ができるように、「入居者思いのケア」「笑顔のある暮らし」をテーマに管理者・職員が共に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が作成し、勉強会にて職員と共に内容を読み合わせ検討している。自己評価を管理者・職員が共に取り組むことで外部評価の理解を高めている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。年間行事・ボランティアの相談・避難訓練の実施など多様なテーマで話し合い、地域との交流の機会づくりなど積極的に運営推進会議を活かした取り組みを行っている。大木町役場の健康福祉課の協力により、成年後見制度の勉強会も会議の機会を通して行い、制度の理解を高めるなど、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	毎月、家族に利用料の支払いを直接依頼し、家族とのコミュニケーションが図れるように取り組んでいる。家族の面会時や利用料の支払い時など、意見があれば言っていたるように取り組んでいる。家族の要望・意見として、テレビ購入や入居者の畑づくりへの支援などがあり、出された要望や意見は検討し対応できるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区会に加入している。絵下古賀地区の区長が協力的で、地域行事の情報などをいただき、参加できる関係を築いている。また、地域のボランティアも積極的に受け入れ、今後ますますボランティアの協力を得ながら、入居者の生きがいづくりや楽しみを充実させていきたいと考えている。ホームだよりも地域に向けてPRし、高齢者ケアの相談窓口を設置し、地域密着型サービスの役割を果たそうと取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	経営理念として、地域密着型サービスの役割をふまえ、「常に思いやりの心を持ち、地域との交流の中で、地域社会に信頼される事業を目指します。」を掲げている。また、理念に基づき、方針・私達の使命・グループホームとしての誓いを定め、ケアやサービスの質の向上を目指している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	日々のケアやサービスが理念に基づいて提供できるように、朝礼時に理念・方針・私達の使命を唱和している。唱和することにより、理念の理解を高めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	区会に加入している。絵下古賀地区の区長の協力を得て、地域行事の情報などをいただき、参加できる関係を築いている。また、地域のボランティアも積極的に受け入れ、今後ますますボランティアの協力を得ながら、入居者の生きがいづくりや楽しみを充実させていきたいと考えている。ホームだよりも地域に向けてPRし、高齢者ケアの相談窓口を設置し、地域密着型サービスの役割を果たそうと考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は、管理者が作成し、勉強会にて職員と共に内容を読み合わせ検討している。自己評価を管理者・職員が共に取り組むことで、外部評価の理解を高めている。自己評価の取り組みにより、日々のケアやサービスの振り返りができ、小さなことから改善していこうという意識が生まれている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的に2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。年間行事・ボランティアの相談・避難訓練の実施など多様なテーマで話し合いを行い、地域との交流に機会づくりなど積極的に運営推進会議を活かした取り組みを行っている。会議では大木町役場の健康福祉課の協力により、成年後見制度の勉強会を開催し、制度の理解を高めるなど地域密着型サービスとしての役割を果たそうと取り組んでいる。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム コスモピア大木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	大木町役場との連携により、「地域ケア推進協議会」「地域密着型サービス事業所連絡会」「介護支援専門員連絡会」に参加している。これらの機会を活かし、地域内の事業所と情報交換を行うと共に、積極的に勉強会や研修に参加し大木町との連携を高めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	運営推進会議において、大木町役場の健康福祉課の協力により、成年後見制度の理解を高める勉強会を開催している。現在は利用者はいないが、今後の制度の活用を視野に入れて、理解を更に深めていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の面会時や毎月の利用料の支払い時には、家族とのコミュニケーションを図り、その際に入居者の暮らしぶりを報告している。また日々の様子を毎月担当の職員が手紙を送ると共に、写真を添えて家族に報告している。金銭管理は、出納帳の確認により、サインをいただいている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	メッセージボックスを設置している。家族の面会時や利用料の支払い時など、意見があれば言ってもらえるように取り組んでいる。家族の要望・意見は検討し、運営に反映させるよう努めている。今後、家族だけで話し合う機会をもてるよう、検討中である。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	2ユニットの職員は、入居者とのなじみの関係に配慮し、日常的に相互に交流を行い、異動や離職の際に入居者のダメージを防ぐために取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、健康的で明るい方を重視し、年齢・性別などを理由に採用対象から排除しないようにしている。職場環境としては、働きやすい環境を目指し、職員が目標を持って働けるように資格取得のバックアップを行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム コスモピア大木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	認知症であっても、その人らしさを大切にしたケアを重視し、また一人の社会人として接する事等について、勉強会で確認している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	グループホーム協議会の筑後ブロックに加入しており、定期的な研修があり、職員が希望する研修があれば参加できるように支援している。また、コスモピア大木では毎月1回勉強会を開催し、職員のスキルアップを図っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会の筑後ブロックに加入しており、定期的な研修があり、同業者との交流や情報交換を行っている。また、大木町主催の地域密着型サービス事業所連絡会が年3～4回あり、ホームの見学会やヒヤリハットの事例報告などを行い、ケアやサービスの質の向上を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居にあたっては、職員間で入居者の情報を共有し、早く慣れていただくために顔見知りになれるように集中的に関わるなど、入居者が安心して暮らせるようにバックアップ体制を構築している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者一人ひとりに暮らしの役割があり、洗濯物たたみ・お茶碗拭き・畑づくりなど、できることを活かした取り組みを行っている。料理の得意な方には料理方法を教わるなど入居者から学ぶ機会をつくり、生きがいある暮らしづくりを支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム コスモピア大木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	コスモピア大木独自のツールとして「らしきシート生活史質問リスト」があり、その中で「出生～幼少時代・学童～教育を受けた時代・青年～就労時代」「初老～現在まで」とそれぞれの年代に本人の暮らしや思い出など、わかりやすく記録できるようになっており、思いや意向の把握に努めている。現在の思いや意向を把握する取り組みも期待したい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	家族や入居者の意向を尊重し、サービス担当者会議で家族・職員・看護師等によるカンファレンスを行い、本人の生きがいある暮らしを目標に介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に3ヶ月に1回見直しを行っている。短期目標に応じたサービスの実施を「介護計画実践表」に日々記録している。1ヶ月に一度、モニタリング表にてサービスの達成度・満足度を確認している。サービス内容は、具体的な内容となっており、残存機能の維持・立位保持のための立ち上がり1日5～10回など、日々の回数を記録し介護計画の見直しの際にその評価を行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者の生きがいづくりのために、ホーム周辺を畑にし農機具をそろえたり、カラオケの好きな方にはカラオケを楽しんでいただけるようにと入居者の要望に対応できるように柔軟に取り組んでいる。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族が希望するかかりつけ医を優先している。家族の意向や状況に応じて、受診や往診などの支援を行っている。週1回の往診の方もあり、健康や疾病管理には十分な体制があるが、家族への報告についても検討してほしい。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム コスモピア大木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	これまで看取りの経験があり、管理者・職員は看取りの方針を共有している。看取りの際には、医療機関との連携のもと家族を交えて話し合いを行い、必要に応じて入院も考慮に入れ、家族と共に看取る体制を確立している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員は入居者との関係の中で、個別に適切な言葉かけを行い、さりげないケアを心がけ、自己決定を促すように努めている。個人情報の取り扱いには充分配慮し、秘密保持の徹底に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	調査当日は、自主的に歌の好きな入居者の方が集まり、合唱を楽しまれていた。午前中は率先して入居者同士で歌を楽しむことが多く、入居者の思いにそった過ごし方ができることを第一に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食材は、業者より配送し、季節感を感じていただけるように献立やおやつに配慮している。入居者は野菜の皮むきや漬物をつけるなど、できることを手伝っていただき、食事を楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	大浴場と個室があり、大浴場の場合は、入居者は温泉気分を楽しみにしている。大浴場の場合は、曜日を決めて入浴を支援している。入居者の要望にそった入浴ができるように取り組みを期待したい。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム コスモピア大木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者それぞれの楽しみごととして、畑づくり・カレンダー制作・お地蔵さん参りの散歩などを支援している。入居者の生きがいある暮らしをテーマに日々のケアやサービス提供に努めている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	季節に応じて、日課として散歩を楽しんでいただけるように取り組んでいる。また、周辺が田園地帯で自然に恵まれているため、日常的に天候がよい日は日光浴ができるように支援している。季節ごとには、弁当を持ってドライブなども楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	センサーを設置し、玄関に鍵をかけないケアを実践している。また、地域の方と入居者が少しでも顔なじみになるように地域の行事に積極的に参加するなど、協力していただける関係性を高めるように努力している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	ホームの安全性の確保のために、4月・8月・10月に消火・避難訓練を実施している。実施記録に訓練の想定事項・訓練の概要・様子・反省点・講評などがあり、一連の訓練の状況を評価できるように取り組んでいる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取量は1200～1400calを目安にしている。水分摂取量は、必要な摂取量が確保できるように努めている。水分を取りたがらない入居者は、好みの飲み物を準備するなど支援している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム コスモピア大木

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は明るく、木を基調とした造りとなっている。壁には行事の風景や外出の際の写真などが飾られ、入居者の暮らしの様子がわかるようになっている。各所にソファや椅子が配置されており、くつろげる場所が確保されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室入り口には、自室である認識がしやすいよう写真を貼るなど工夫がある。入居者の状態に応じて畳を利用するなど、状態に合わせた取り組みを行っている。共用空間と同様に木の質感を活かした造りとなっており、居心地のよい空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			